

中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

学校教育目標

- 互いを認め、高めあう学びを大切にします。【知】
- 自他の生命を尊重し、思いやる心を大切にします。【徳・体】
- 自らの生き方を考え、実践する力を大切にします。【公・開】

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力

- 言語活動によるコミュニケーション能力
- 自分の身を自分で守る力
- 地域の一員として社会に貢献する力

具体化した資質・能力

- 他の人と積極的に関わりながら、問題を解決していく能力
- 様々な情報を取捨選択・整理し、適切な言動に結び付けていく能力
- 地域に積極的にかかわり、よりよい社会を築いていこうとする態度

中期取組目標

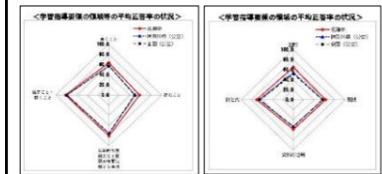
- ・一人ひとりの生徒の特性の理解に努め、きめ細やかな指導を継続して学校が生き生きと過ごせる場となるよう努めます。
- ・職員同士を含め、コミュニケーションの基本となるあいさつ運動の活性化に努めます。
- ・保健指導や災害教育を通じて、自分の健康・安全を自分で守れる生徒の育成に努めます。
- ・地域活動への積極的な参加を促し、地域の一員としての意識と貢献できる力を育てます。
- ・「わかる」「できる」「楽しい」授業づくりを推進し、学力の向上を図ります。

学力向上アクションプラン

重点取組分野	具体的取組
確かな学力	①校内及び小中の相互授業参観を実施し授業改善および授業力向上を図る。 ②学びあいを重視し言語活動を通じて思考力、判断力を高め、グループ学習や討議、プレゼンテーションの機会を計画に増やすことで表現力や生徒のコミュニケーション能力の向上を図る。
担当	学習指導部

学力向上に関わる本校の状況

(1)学力に関わる生徒の実態
令和3年度実施の全国学力・学習状況調査によると、本校は学力・学習意識・生活意識のそれぞれにおいて、市の平均を上回る結果が出ていることから、集団としては概ね基礎的な学力が身に付き、学習意識や生活意識も概ね高まった状態であるといえる。
しかし一部、潜在的に集団についていくことができない生徒たちの存在があり、特別支援の視点で学びを構築していく必要がある。
学習意識では、国語では「文字や文章を読むことは好きですか」という質問に、「嫌い」「どちらかという嫌い」と回答する生徒が多く、数学の学習に対しては「好き」「どちらかという好き」と回答する生徒の割合が低いことも大きな課題である。



(2)これまでの学校の取組状況
本校の長年の課題として、「相手に伝える力」「発表する力」について、苦手意識をもつ生徒が多いことが掲げられる。周囲と豊かに関わり合いながら、学びあっていく課程を大切にすると、授業内で意識的に相手に伝えたり、グループで発表を行ったり、プレゼンテーションを行ったりする活動を取り入れている。

今年度の目標

知的好奇心を育て、学ぶ楽しさや大切さを感じながら、自らの課題解決に向けて周囲と豊かに関わりながら、深く学ぶ生徒の育成を目指します。

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期
○学力・学習状況調査の結果を共有し、少人数での授業やチームティーチングによるきめ細やかな指導を取り入れ、基礎・基本の定着を図る。
○日常から互いに授業を見合せて意見交換を行ったり、相互授業参観を設定・実施したりしながら、授業改善や授業力の向上を図る。
○基礎的・基本的な知識・技能の習得を意識した授業展開を意識する。
○ペアワークやグループ学習、討議、集団の前でのプレゼンテーションなど、授業形態の在り方について工夫を取り入れる。
○全教科にわたって、新聞記事や図やグラフ等を読み取る活動や、情報を読み解いていく活動を取り入れた授業展開を行い、読むことへの抵抗感を和らげる。

下半期
○小中一貫ブロックで、小中学校合同の授業参観及び合同協議会を行い、互いの校種の視点を大切にしながら、授業改善についての見識を深めていく。
○日常から互いに授業を見合せて意見交換を行ったり、相互授業参観を設定・実施したりしながら、授業改善や授業力の向上を図る。
○基礎的・基本的な知識・技能の習得を意識した授業展開を意識する。
○ペアワークやグループ学習、討議、集団の前でのプレゼンテーションなど、授業形態の在り方について工夫を取り入れる。
○全教科にわたって、新聞記事や図やグラフ等を読み取る活動や、情報を読み解いていく活動を取り入れた授業展開を行い、読むことへの抵抗感を和らげる。

豊かな心の育成推進プラン

重点取組分野	具体的取組
豊かな心	①「道徳」の授業を通じて、物事を様々な角度から深く考えさせることにより、「規範意識」や「自己有用感」、「自己肯定感」を伸長する。 ②コミュニケーションの入口としての「あいさつ運動」の活性化を図る。
担当	道徳係・生徒会係

豊かな心に関わる本校の状況



生徒は全般的に明るく素直で穏やかであり、落ち着いた学校生活をおくっている。そのほとんどが、教職員や友人とも友好的な関係を築きあげ、思いやりの心をもって、周囲に優しく気配りをしながら過ごすことができる。
また、自己有用感については、市の平均値を大きく上回る数値を示していることから、日常からの互いを認め合う活動の中で、自分のよさを十分に理解し、それを集団の中で発揮することができると思われる。
しかし、少数ではあるが、そうではない生徒たちの存在があり、不用意な発言で友人を傷つけてしまったり、日常の生活のしづさを訴えたりしている生徒が複数いることから、彼らの願いや思いを大切にしていく必要がある。
全国学力・学習状況調査等によると、自分の考えを発表するという発言力や表現力に関して、課題が見られる。日常生活において自分の思いや考えを積極的に発信することを苦手としている生徒が多く、自分の気持ちが表出できないことから思わぬトラブルに発展していくことがある。これらの自ら積極的にコミュニケーションを図っていくこととする部分に対して弱さが認められることから、その育成に課題意識をもってあたる必要がある。

今年度の目標

「豊かな心の育成推進校」としての取組と運動させながら、校内研修を充実させ、全職員の授業力向上と研究意識の高揚を図ります。

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期
○授業を伴った校内研修会を行い、「特別の教科 道徳」における全職員の授業力・指導力の向上を図る。
○公開授業やその後の協議会によって、より望ましい「特別の教科 道徳」の授業の在り方を探求する。
○教材研究や教材開発に努める。教科書を中心に、生徒が身近なこととして捉えたり、実体験を重ねることができそうな内容に整理し、自然に興味・関心を引き出すことができるように工夫をする。
○生徒が興味・関心をもちやすい視聴覚教材や読み物教材の発掘と確保、より使いやすい教材として構築する。

下半期
○授業を伴った校内研修会を行い、「特別の教科 道徳」における全職員の授業力・指導力の向上を図る。
○公開授業やその後の協議会によって、より望ましい「特別の教科 道徳」の授業の在り方を探求する。
○教材研究や教材開発に努める。教科書を中心に、生徒が身近なこととして捉えたり、実体験を重ねることができそうな内容に整理し、自然に興味・関心を引き出すことができるように工夫をする。
○生徒が興味・関心をもちやすい視聴覚教材や読み物教材の発掘と確保、より使いやすい教材として構築する。
○豊かな心の育成推進校として年間の活動をまとめて全職員で共有し、次年度以降の行動プランへとつなげていく。

健やかな体の育成プラン

重点取組分野	具体的取組
健康な心身	①危険を回避し、災害から身を守るだけでなく、自分の体調をしっかりと把握し、傷病を未然に防ぎ、自分の身を守る意識を高める。 ②健康な体をつくるための「食」の重要性を啓発し、バランスの取れた規則正しい食事を意識づける。
担当	保健安全指導部

健やかな体に関わる本校の状況

基本的な生活習慣を身に付け、自分の健康管理を行うことができる生徒が多い。朝食の摂取率が高く、また昼食を家庭から持参してくる生徒が多いことから、健康管理に対しても協力的な家庭が多い。一方で、家庭学習をしたり、自分の時間を捻出したりするために、睡眠時間を犠牲にする生徒が目立っている。夜遅くまでゲームに興じたり、SNSに時間を割いている生徒も多く、翌日の学校生活に支障をきたしてしまうこともある。
運動部の活動は盛んであり、楽しくスポーツに取り組む姿や、体力や技能を向上させようとする姿勢がある。反面、運動に親しむ生徒は多いが、部活動以外でスポーツに取組んだり身体を動かしたりする場面はあまり多くない。昼休み等の運動量も多くはないため、積極的に身体を動かす生徒とそうでない生徒との二極化が顕著である。
よりよい生活習慣が身に付くように、生活習慣や運動習慣を見直すきっかけづくりが求められている。学校保健委員会等での検討を十分に生かしたい。

今年度の目標

自分の心や身体をしっかりと見つめ、食事や睡眠等を含めて自らの健康管理を行うとともに、継続した運動に取組ながら、基礎体力づくりを目指します。

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期
○保健体育の毎回の授業において、導入時にグラウンドをジョギング(2周)することと、腕立伏せ、腹筋・背筋の筋力トレーニングを取り入れる。
○保健体育の授業において、各単元の内容や特性に応じた適切なトレーニングを取り入れ、基礎体力づくりやケガの防止に努める。
○安全教育指導においては、自ら危険を回避して安全確保ができるための知識や、周囲を支えるため、自助・共助の技能を身に付けさせる。
○体育大会等の、スポーツを核とした学校行事において、内容の充実を図り、運動することの楽しさや充実感を味わわせる。
○校外学習や宿泊行事等を通して日常生活を振り返り、より健康的で安全な生活の在り方について考えさせる。

下半期
○保健体育の毎回の授業において、導入時にグラウンドをジョギング(2周)することと、腕立伏せ、腹筋・背筋の筋力トレーニングを取り入れる。
○保健体育の授業において、各単元の内容や特性に応じた適切なトレーニングを取り入れ、基礎体力づくりやケガの防止に努める。
○安全教育指導においては、自ら危険を回避して安全確保ができるための知識や、周囲を支えるため、自助・共助の技能を身に付けさせる。
○球技大会等の、スポーツを核とした学校行事において、内容の充実を図り、運動することの楽しさや充実感を味わわせる。
○学校行事に集団で取り組むことの充実感を味わわせたり、所属感を味わわせたりしながら、健康な生活をおくったり、よりよい生活習慣を身に付けたりすることの大切さを捉えさせる。